

所沢市地域公共交通計画の達成状況評価【プレ評価】

「所沢市地域公共交通計画」の達成状況の評価は、本協議会で実施することとしています。（PDCA サイクルの『Check』に該当）

毎年度 1 1 月頃の協議会において、前年度に実施した事業による計画の達成状況について、指標 1 ～ 6 の評価シートを用いて評価していただきます。

計画に則って施策に取り組む期間は、令和 5 年度～ 9 年度の 5 年間ですが、【プレ評価】として、**令和 4 年度事業分の評価**を今回の協議会で実施します。

令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
計画を実行する期間（ 5 年間）				
プレ評価 令和 4 年度 事業分	評価 令和 5 年度 事業分	評価 令和 6 年度 事業分

今回実施するプレ評価

5.10. 達成状況の評価方法

本計画の策定にあたっては、市民や公共交通事業者の代表者、関係行政機関などで構成する「所沢市地域公共交通協議会」において、本市の今後の公共交通のあり方に関する調査・検討を行ってきました。目標の達成状況の評価も「所沢市地域公共交通協議会」において実施します。

適切に計画を推進するため、継続的にモニタリングを行い、PDCA サイクル[※]を回すことにより、必要に応じて施策や計画の見直しを実施します。



図 5-9 PDCA サイクル概略図

指標1 公共交通利用者数の増加

評価の視点

鉄道、路線バス、ところバス・ところワゴンの連携により、市全体の公共交通の利便性が向上しているか。

評価の方法

各公共交通事業者が公表する乗降者数の合計が、基準値に対して増加しているか。

「鉄道」は市内11駅の1日あたりの乗降者数の合計値とする。ただし、東所沢駅は乗車数の公表値を2倍して乗降者数に換算する。

「バス」は市内を発着又は経由する民間路線バス、ところバス・ところワゴンの1年あたりの利用者数の合計値とする。

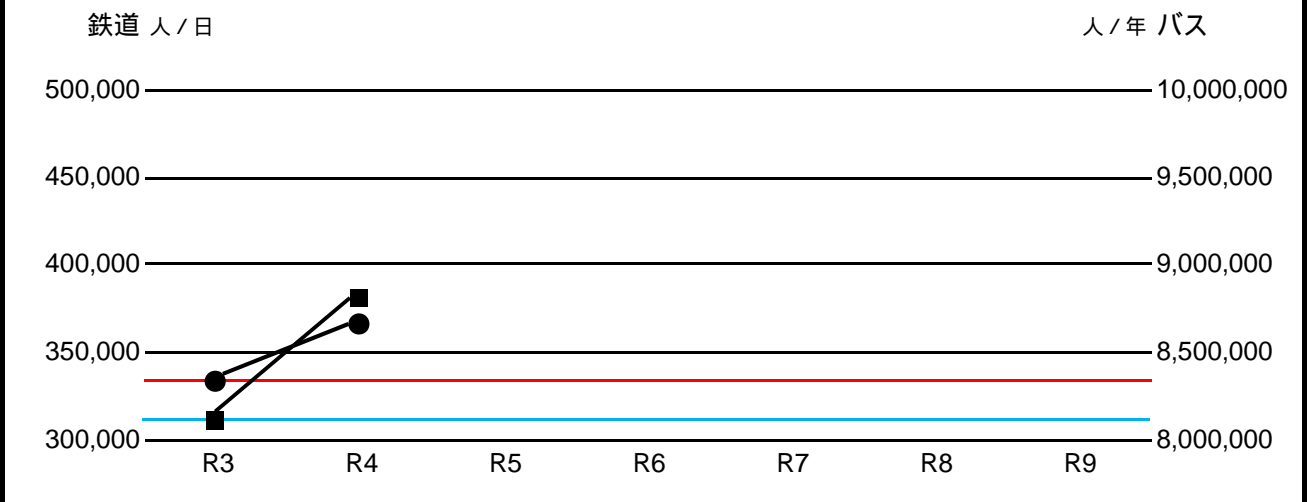
目標達成に向けた施策・取り組みの状況【令和4年度】

- ・ところバス西路線のコース短縮、増便
- ・三ヶ島地区ところワゴンのルート見直し、柳瀬地区ところワゴンの実証運行開始
- ・航空公園駅 - サクラタウン東 - 東所沢駅 バス路線の新設

基準値・現在値・目標値

	基準値		目標値				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
鉄道（人/日）	334,000	367,781					基準値以上
バス（人/年）	8,118,000	8,808,842					基準値以上

指標の推移（左軸：鉄道、右軸：バス）



評価結果【令和4年度】

A

【評価コメント】

新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数の激減から回復傾向であり、基準値以上とした目標を達成しているが、コロナ禍前の人数には戻り切っていない。

今後は、事業者の垣根を超えた連携の強化を期待したい。

評価基準 A：目標を達成している / 順調に推移している B：施策・取り組みの継続が必要
C：新たな施策・取り組みが必要 D：大幅な方向修正が必要 / 目標値の見直しが必要

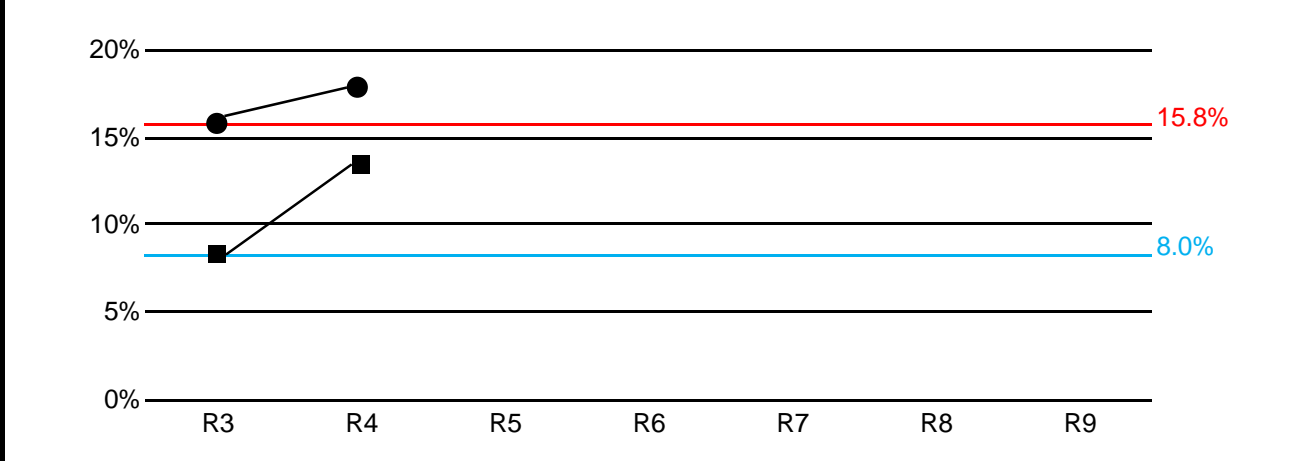
指標2 ところバス・ところワゴンの収支率の改善

<p>評価の視点</p> <p>市が公共交通に投入している公費に対して、投資の効果が得られているか。</p>
<p>評価の方法</p> <p>運行経費（車両等の購入・減価償却、停留所の設置・更新等の費用を除く）に対する、収入（運賃収入+広告収入）の割合である収支率が、改善しているか。 車両や設備の更新費は、更新時期の年度のみに大きく影響するため、経費から除いている。</p>
<p>目標達成に向けた施策・取り組みの状況【令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域組織による利用促進の取り組み（三ヶ島地区） ・広報ところざわ（令和5年2月号）にて、公共交通利用促進のための特集を掲載

基準値・現在値・目標値

	基準値							目標値
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
ところバス	15.8%	17.8%					基準値以上	
ところワゴン	8.0%	13.3%					基準値以上	

指標の推移（ところバス、ところワゴン）



評価結果【令和4年度】

A	<p>【評価コメント】</p> <p>コロナ禍からの回復が見られ、ところバスの収支率は改善している。ところワゴンは、三ヶ島地区の利用が令和3年度から大幅に伸び、収支率が大きく改善している。 今後、ところワゴンを運行開始する他地区での収支率の動向も注視する必要がある。また、人件費や燃料費の高騰の影響を受ける可能性もあるため、収入増加を積極的に進められたい。</p>
----------	--

評価基準 A：目標を達成している / 順調に推移している B：施策・取り組みの継続が必要
C：新たな施策・取り組みが必要 D：大幅な方向修正が必要 / 目標値の見直しが必要

指標3 公共交通カバー圏域の人口割合の増加

評価の視点

公共交通により、コンパクト・プラス・ネットワークの街づくりが進んでいるか。

評価の方法

公共交通利用圏内に居住する市民の割合が増加しているか。

鉄道駅から半径800m以内、またはバス停留所（ところワゴン停留所を含む。）から半径300m以内の区域を公共交通利用圏とする。

次の国勢調査が実施される令和7年度のカバー率が、令和2年度以上となることを目標とする。

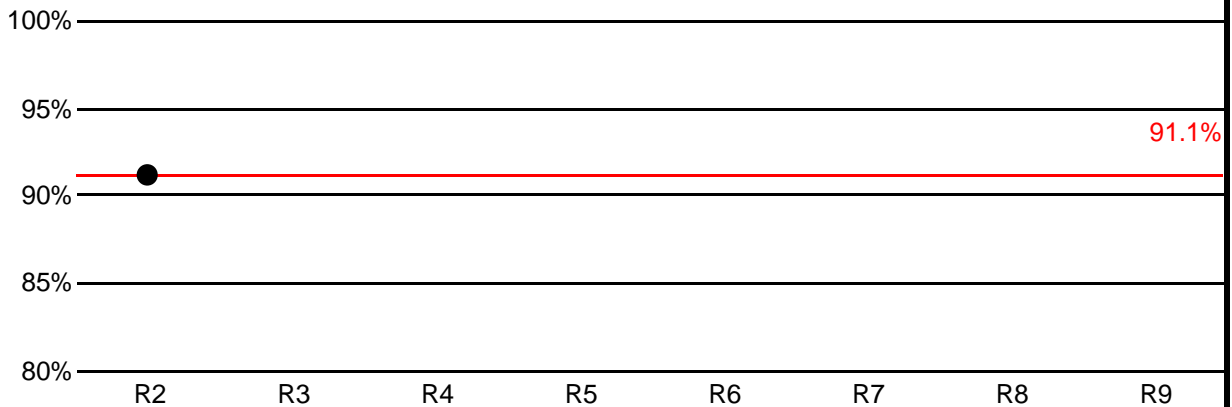
目標達成に向けた施策・取り組みの状況【令和4年度】

- ・三ヶ島地区ところワゴンのルート見直し、停留所新設（和ヶ原商店街周辺の公共交通空白地の解消）
- ・柳瀬地区ところワゴンの実証運行開始（本郷、南永井の公共交通空白地の解消）

基準値・現在値・目標値

人口 カバー率	基準値					目標値		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	91.1%	→				基準値以上		

指標の推移



評価結果【令和4年度】

-	<p>【評価コメント】</p> <p>土地区画整理事業との連携などにより、人口が多い地域の交通空白地を解消することにより、カバー率の向上を図りたい。</p>
---	--

評価基準 A：目標を達成している / 順調に推移している B：施策・取り組みの継続が必要
 C：新たな施策・取り組みが必要 D：大幅な方向修正が必要 / 目標値の見直しが必要

指標4 交通政策に対する満足度の向上

評価の視点

市民が、公共交通に関する取り組みを、暮らしの質の向上として実感できているか。

評価の方法

毎年度実施する所沢市市民意識調査における、交通政策に対する満足度が上昇しているか。
「満足度」は、回答者全体を母数にして、交通政策に「満足」「やや満足」と回答した市民の割合で計算する。

目標達成に向けた施策・取り組みの状況【令和4年度】

- ・バス停留所付近のベンチの設置
- ・ところバス西路線（新所沢駅 - 小手指駅間）の増便

基準値・現在値・目標値

	基準値						目標値
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
交通政策の満足度	38.3%	38.3%					52.1%
【参考】交通政策の要望度	19.2%	22.1%					-

指標の推移



評価結果【令和4年度】

C

【評価コメント】

交通政策に対する満足度は、令和3年度から変化がない一方、要望度は上昇している。交通政策への関心が高まっていると考えられることから、市民の声を丁寧に把握し、暮らしの質の向上を実感できる施策を実施する必要がある。

評価基準 A：目標を達成している / 順調に推移している B：施策・取り組みの継続が必要
C：新たな施策・取り組みが必要 D：大幅な方向修正が必要 / 目標値の見直しが必要

指標5 モビリティ・マネジメント（MM）の実施回数の増加

評価の視点

自家用車から公共交通利用に転換する市民意識の醸成に向けて、具体的な取り組みを進めているか。

評価の方法

市民が公共交通を利用するきっかけや、その意識を持ってもらうための働きかけである「モビリティ・マネジメント（以下、「MM」）」の回数が増え、継続的に実施しているか。

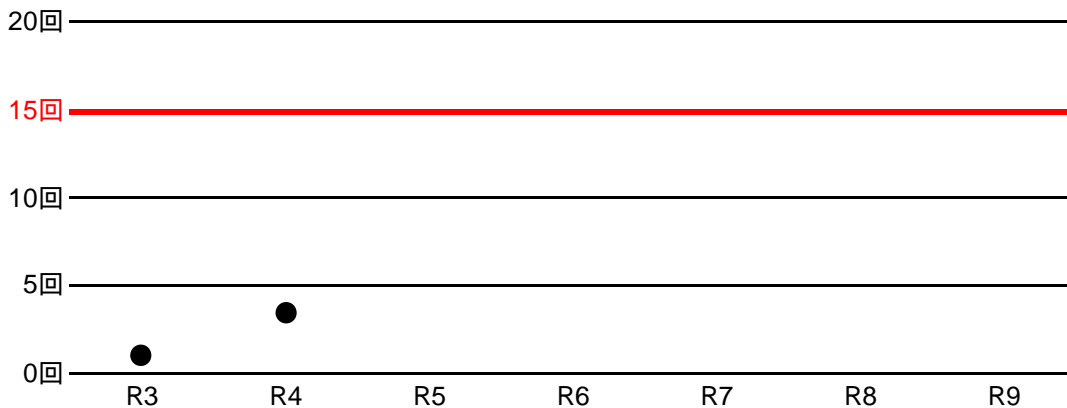
目標達成に向けた施策・取り組みの状況【令和4年度】

- ・ ところバス・ところワゴンの路線、時刻をまとめた利用案内を作成
- ・ 広報ところざわ（令和5年2月号）にて、公共交通利用促進のための特集を掲載
- ・ 柳瀬地区とところワゴンの出発式に合わせて、地域住民向けの体験乗車会を開催

基準値・現在値・目標値

	基準値						目標値
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
MM実施累計回数 ()は当該年度の回数	(1回)	(3回)					R5～R9 累計15回

指標の推移（ R5年度からR9年度までの累計）



【参考】

評価結果【令和4年度】

A	<p>【評価コメント】</p> <p>令和4年度には3回のMMを実施し、令和5年度以降の5か年で累計15回の実施に向けて取り組みの準備ができていると評価できる。</p> <p>効果を高めるため、年齢層や地域などのターゲットを明確にしたMMの実施を求める。</p>
----------	---

評価基準 A：目標を達成している / 順調に推移している B：施策・取り組みの継続が必要
C：新たな施策・取り組みが必要 D：大幅な方向修正が必要 / 目標値の見直しが必要

指標6 脱炭素に向けた環境に優しい車両の導入

評価の視点

公共交通分野において、脱炭素社会の実現に向けた具体的な取り組みを進めているか。

評価の方法

ところバス・ところワゴンへのEV（電気自動車）、FCV（燃料電池車）の導入台数が、基準値に対して増加しているか。

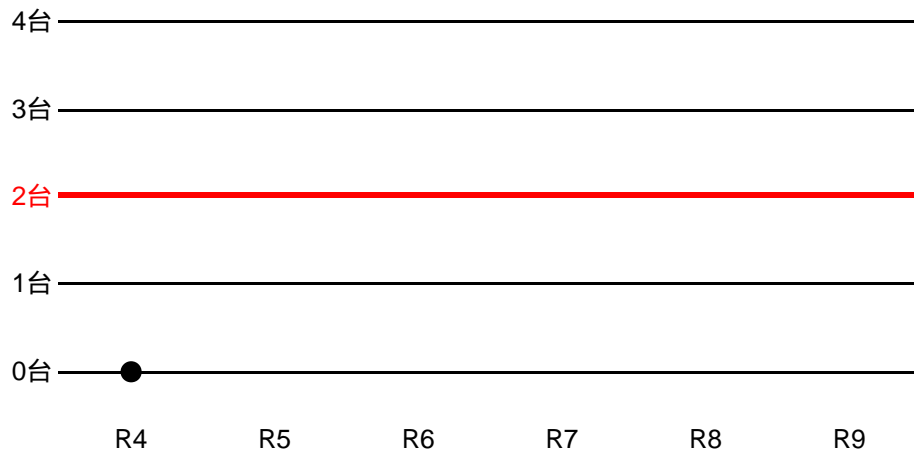
目標達成に向けた施策・取り組みの状況【令和4年度】

- ・ところバスにEVバスを導入するため、車両形式等を検討
- ・令和5年度予算を要望 予算化

基準値・現在値・目標値

	基準値					目標値
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ところバス・ところワゴンのEV・FCVの台数	0台					2台

指標の推移



評価結果【令和4年度】

B

【評価コメント】

令和5年度に、ところバスにEV 1 台の導入を予算化していることは評価できる。2 台導入の目標達成に向け、運行実績の蓄積と令和6年度以降の予算確保が必要である。

評価基準 A：目標を達成している / 順調に推移している B：施策・取り組みの継続が必要
C：新たな施策・取り組みが必要 D：大幅な方向修正が必要 / 目標値の見直しが必要